小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	竹生 正人	法人・事業所の 特徴	同一敷地内にはサービス付き高齢者向け住宅、認知症対応型通所介護、居宅介護支援、訪問介護、福祉用具などがあり、安心して地域の中で生活ができるよう様々なサービスを提供しています。県民せいきょう福祉理念である「あなたらしさいつまでも」をもとに、さらに「10の基本ケア」を取り入れ、ひとりひとりの普通の生活を実現していけるように取り組んでいます。
事業所名	県民せいきょう小規模多機能型ホーム 江守きらめきハウス	管理者	飴善 美津子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	人	人	1人	人	3人	人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	それぞれの項目にばらつきがあるということを改善していくために、外部評価においては毎月、小規模会議を定期開催しながら振り返りを実施していきます。振り返りにおいては、事前にシート内容について「あまりできていない」「ほとんどできていない」の項目を重点的に実施し取り組んでいきます。	小規模会議の開催は職員がシフト制のため全員で揃って行うことが出来なかったが、毎日のお昼のミーティングの中で外部評価の振り返りをする時間を作るようにしたが、共有が不十分なところもあった。	・「あまりできていない」「ほとんどできていない」点の改善について議論する。 ・いつ、何を使ってどうするか具体的のある計画を立てる。 ・できていない職員の不安に思っている事の聞き取り	・それぞれの項目、改善計画を職員が目につきやすいスタッフルーム等に貼り出し意識して行動できるようにする。 ・「あまりできていない」「ほとんどできていない」項目については、なぜ出来ないのか、難しく感じていることを明らかにしていきます。その結果を毎週の小規模・認通合同ミーティングで共有していきます。
B. 事業所のしつらえ・環境	季節ごとに小規模多機能(江守きらめき)の活動内容がわかるものをサ高交流スペースなどに掲示していきます。ハード面だけに頼らず、ハード面を活用できる仕組みを発案しながら適宜、江守きらめき小規模多機能のアピールを実施しながら、気軽に地域の方々、またご家族の方々を足を運んで頂けるような仕組みを構築していきます。	交流スペースに小規模多機能の活動の様子や案内を掲示している。地域の方に気軽に立ち寄って頂くことはできなかったが、利用者さんの親戚の方やお知り合いが様子を見に来られることは多かった。	・入り口が分からない。入りづらい。 ・サ高住の建物には行けるが、隣は行く機会がない。	・建物1階玄関やサ高住交流スペースに毎月発行している広報誌を掲示し、小規模多機能に興味を持ち気軽に立ち寄って頂けるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	総合マネジメント加算とは何かを共有するために、現在取得している加算内容について再度勉強会を行いサービス計画に取り入れていきます。地域行事においては、運営推進会議などにおいて情報を事前に頂き、事業所と地域との関りを構築していきます。月間行事に地域行事の予定を取り入れ、ご利用者への案内も定期的の実施していきます。	加算についての勉強会を行う事は出来なかったが、個別に地域資源を把握し、その人に合わせた支援ができるように心がけた。地域行事の情報は頂くことが出来たが、時間や職員の状況で参加が難しいことが多かった。	・地域からの相談はあるのか(こんな人、こんな状態) ・認知症サポーター研修やサロン活動で地域と関わっている。 ・出入りしている地域の方に積極的に話しかけ聞き取りをする。	・行事担当を作り、地域行事やイベントに積極的に参加し、地域との関わりが深まるようにしていく。 ・「きらめき応援団」の募集や、地域で行っているサロン活動に参加し、お互いに顔のわかる関係を作っていきます。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	ご自身の地域の関りシート(情報ツール)を作成し、ご利用者と関りながら、また、必要時にはご家族に情報をいただきながら作成していきます。本来のこれまでの暮らしが少しでもご利用者の地域資源となるよう取り組んでいきます。	全員の地域の関わりシートは作成できなかったが、必要な方については行政の担当者の方や医療機関の方も参加したカンファレンスを行ったり、民生委員の方、近隣の方との連携をはかめることはできている。	・ここに来ていない時、不安無く過ごせるためにどんな関わりができるか。 ・本人の望む暮らしの実現のための聞き取りが必要。	・きらめき利用以外の時間に本人がどのように過ごしているかを、本人、家族とコミュニケーションを取りながら把握する。必要に応じて訪問支援を行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	ヒヤリハットやサービス事故においては、再度、再発防止についての勉強会を実施していきます。他拠点においてのサービス事故・リスクマネジメントの情報発信だけでなく、自分たちの事業所で同じことが起きないようにするために何が必要かなどを話し合い、ご利用者が安全にご利用できる環境を整えます。ご家族からもサービスに対するご意見をいただける環境を構築するためにも、日頃からのコミュニケーションを大切にしていきます。	ヒヤリハット担当者を作り、記入、全員での共有の有無を確認している。ヒヤリハットに対する意識が薄くなり記入件数が減った時はミーティング時に再確認を行っている。送迎時は特に家族との情報交換に努め、心配事の聞き取り、解決策と一緒に考えている。	・ヒヤリハットの再発防止の勉強会を行う。 ・運営推進会議の参加者が少ない。会議のあり方について考える。	・運営推進会議では地域の方と一緒に困難事例や問題を話し合い、たくさんの意見を頂ける場になるようにする。 ・地域の高齢者の動向を把握し、事業所としてできる事も話し合いを行います。現在の民生委員の方の参加だけでなく、その他地域住民の方の参加をお願いしていく。 ・利用者様が実際に過ごしておられるスペースにて、運営推進会議を行う機会を設ける。
F. 事業所の防災・災害対策	図上訓練なども想定しながら、小規模内でも、レクの時間を活用しながらご利用者に体験した福井大震災などの話をして頂くなど、小規模ご利用者と職員とで話し合う機会を定期的に設けていきます。	レクの時間や会話の中で震災や豪雪の話題を出し、体験談を話すことで防災、災害への備えの大切さを意識していただいている。	・AEDの訓練を頼りにしている。災害時の受け入れ体制、備品の自治会の防災訓練の参加案内	・避難訓練には多くの利用者さんに参加していただく。(訓練日が通い利用予定でない方にも声をかける) ・避難訓練やAED訓練については、地域の方にも案内、一緒に参加して頂く。